

教育相談週間が始まります!!

今回は、新学期始まって初めての教育相談となっています。
第1回は、担任と学級生徒との教育相談週間となっています。
生徒と1対1で話す貴重な時間を、有意義な時間とするために
ポイントをいくつかお伝えしたいと思います。参考にしてみてください♪



教育相談は「指導」ではなく 「傾聴」を心がける

教育相談とは、

「生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深め、人格の成長への援助を図るもの」

【教育相談の機能】＝生徒へ与える効果

- ① 心が軽くなる
- ② 心が整理される
- ③ 自己肯定感が高まる
- ④ 自分をコントロールできるようになる
- ⑤ 受容を通して人間関係についての理解が深まる

⇒たくさん言いたいことはあると思いますが、教育相談では「受容」「共感」「傾聴」を心がけましょう。指導の場になってはアウト！
⇒生徒が「沢山聞いてもらえた」「また話したいな」と思わせることが大切です。教師が話して終わるでは意味がありません。
⇒教育相談の終わりには、生徒が笑顔になっている、そんな教育相談の場にしましょう。



引き出し（ツール）を準備しておく

「アンケート」に悩みが書かれていない場合、話を引き出すのはなかなか難しいものです。学年が上がれば上がるほど、質問しても「ない」の一言で終わることもしばしば・・・。「ない」わけではなく、その前には言葉が隠されているのです。「あなたに話すことは『ない』」や、「言っても無駄なので話さ『ない』」などです。
話してもらうにも努力と信頼関係が必要ということです。

【ツール①満足度ものさしで心を探る】

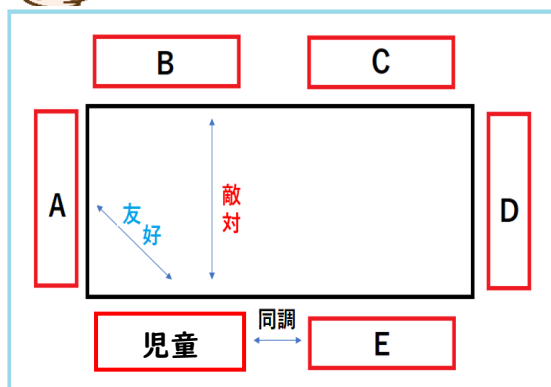
学校・家族・友達・部活（習い事）など本人を取り巻く環境のストレス度を知ることができます。「満足度はどれくらい？」と0から100%で示してもらくと、1番低いものが分かります。（50%以下はストレス要因となっている可能性あり）低いものに対してフォーカスを当て、聴きだすと自然と悩みを話すきっかけになります。

【ツール②絵を描かせる】

話が苦手な子には、気持ちを絵で表現してもらうのも効果的。
「学校のすきなところ」「将来の夢」「家族の絵」など、本人に課題がありそうな所について絵を描かせ、そこから話題を広げていくと生徒の内に秘めた事柄が見えてくることがあります。



話す場所・座る場所を考える



話を聴く時には、話し手にリラックスさせることが大切です。向かい合う座り方は『指導的』に感じ緊張を与えてしまいます。理想の座り方は斜めに座る、または横に座ることが、相手の緊張感を和らげ親近感を与えます。また聞き手（教師）は、生徒の左側に座るとよいでしょう。左からの音は右脳に届きます。右脳は感情を司り、総合的に物事を考える時に使います。右脳に語りかけることで、生徒も教師の言葉を素直に受け取ることができるでしょう。

教育相談では、担任と生徒が①対①で話ができる機会であり、この時間を楽しみにしている子や、この機会に友達関係や家族のことなど悩みや不安を伝えたいと思っている生徒も多いと思います。そういう気持ちで望む生徒に対し、教室で他の生徒がいたり、担任が作業しながら話を聞く雰囲気の中では、果たして児童が本音で心を開いて話してくれるでしょうか。10分15分の時間でも、誰もいない空間で、体を向け目を向け安心して話ができる環境を整えることが大切です。



参考：日本実業出版社『脳のしくみ』新井康允著

ちなみに！勉強を教えたいときは右側から指導すると、左脳に届き学習の理解度が高くなるともいわれています☆机間指導の声掛けは右側からがベスト！！